

研究課題名	FAP 患者に対する IDP(Intensive Downstaging Polypectomy) における CSP(Cold Snare Polypectomy) の有用性の検討
研究期間	2024 年 12 月 2 日 ~ 2025 年 12 月 31 日
研究の対象	2012 年 9 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の期間で、当院で家族性大腸腺腫症 (FAP) の大腸腫瘍に対して IDP (内視鏡的徹底摘除術) を受けられた方。
研究の目的・方法	FAP は 50 歳までにほぼ全例大腸癌を発症するとされ、予防的大腸全摘術が推奨されていますが、予防的大腸全摘術は、デスモイドの発症リスクが上昇し、肛門機能障害など QOL の低下をきたす可能性があります。近年、非密生型 FAP 患者に対して内視鏡的に大腸ポリープを全て切除し大腸癌の発症を予防する IDP を行うことによって大腸全摘術を施行せず病態を制御できる可能性が報告されていますが、10mm 未満の腺腫が疑われる大腸腫瘍に対してどのような切除法を選択するかという検討はまだなされていません。そこで今回 10mm 以下の腺腫をどのような方法で切除すれば良いか検討することを目的にしました。
研究に用いる試料・情報の種類	本研究は、診療録 (カルテ) 情報を用いて調査を行います。カルテから使用する内容は、年齢、性別、部位、腫瘍径、治療回数、偶発症の有無、内服薬の種類、内視鏡所見、病理組織所見と臨床経過です。個人を特定できる情報は解析に用いません。
外部への試料・情報の提供	ありません。
利用または提供を開始する予定日	2024 年 12 月 2 日
個人情報の保護	情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学病院消化器内科 教授 岡 志郎
その他	ありません。
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象といたしませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。 また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせ

ください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

広島大学病院 消化器内科

担当者：ト部 祐司

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

電話番号：082-257-5955